

記者発表事項に関する資料

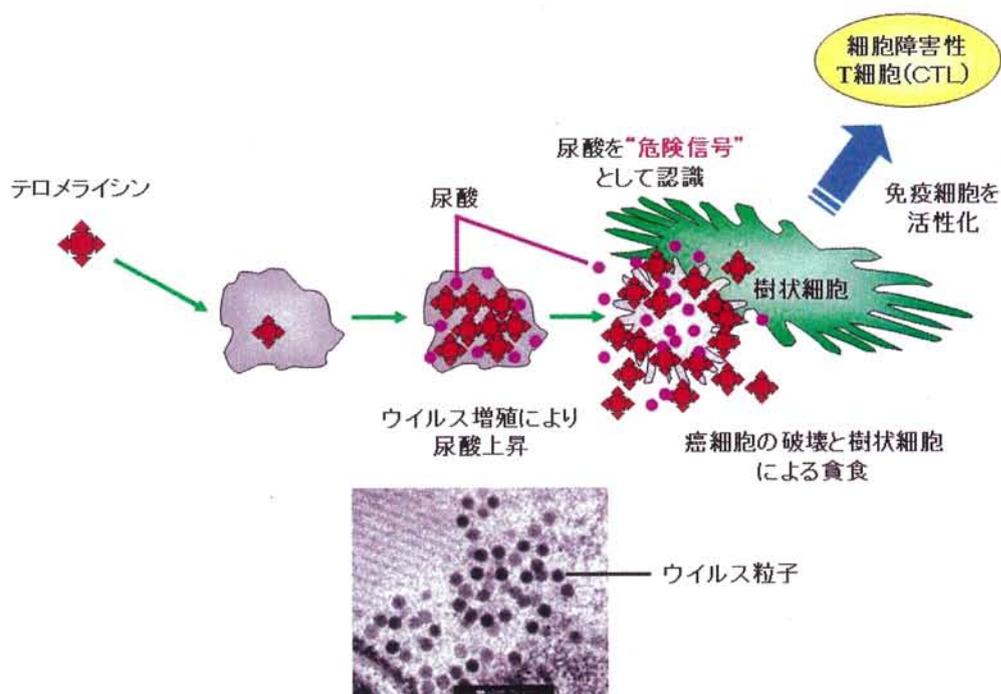
「腫瘍融解ウイルスの癌細胞における尿酸産生促進に基づく免疫活性化機構を解明」

岡山大学医学部・歯学部附属病院 遺伝子・細胞治療センター

岡山大学で開発され、現在、米国で臨床試験が進んでいる腫瘍融解ウイルス「テロメライシン」の癌細胞に対する免疫を活性化する新しいメカニズムが明らかになった。

テロメライシンは、癌細胞でのみ増殖し細胞死を誘導するように遺伝子改変された抗癌アデノウイルス製剤であり、米国ダラスにて第I相臨床試験が進行中である。私たちは、テロメライシンが癌細胞に感染して増殖すると、癌細胞内の尿酸濃度が上昇し、尿酸を危険信号と認識した樹状細胞などの免疫担当細胞が、癌細胞に対する免疫を活性化することを明らかにした。すなわち、テロメライシンは増殖することで癌細胞を直接殺すだけでなく、免疫を活性化して間接的に細胞を殺すこともできることが証明されたわけである。血液中の尿酸が上昇すると、尿酸結晶が蓄積した部位に炎症が起こり激しい痛みを生じる痛風となることが知られている。しかし、ウイルスの増殖によって癌細胞内の尿酸産生が促進されるという報告は初めてである。

この結果は、米科学雑誌「オンコジーン (Oncogene)」に掲載予定である。



問い合わせ先：

医学部・歯学部附属病院 遺伝子・細胞治療センター

藤原 俊義 副センター長

電話 086-235-7997